

小学校外国語活動実践研修(山口市)は大盛況でした。

6月18日(金)山口市立阿知須小学校で、外国語活動の研修会が行われました。市内外、遠くは徳島県からの参加もあり、当日200名を超える参加者があり、大変な熱気でした。

阿知須小学校には、廊下や踊り場のコーナー、子どもたちの下足箱など随所にお花が生けてあり、参加者に対するおもてなしの心を感じました。

研修会では、次のような内容で行われました。

【示範授業1 5年生(ティームティーチング)】

英語ノート1 Lesson5 「I don't like blue. いろいろな衣装を知ろう」

鳴門教育大学大学院学校教育研究科 准教授 兼 重 昇

阿知須小学校 5年1組担任 教諭 川 尻 裕 子



電子黒板を積極的に活用して、色や形を英語で表現する授業が行われました。子どもたちは興味をもって繰り返し聞いたり話したりしました。また、服の着せ替えをする活動では、兼重先生や川尻先生をモデルとして色などを置き換えて、各班でコーディネートを考え、どんなイメージの服かを発表し盛り上がりました。子どもたちの理解の度合いや反応をしっかり受け止め、授業を進められていたことが大変印象的でした。

【示範授業2 6年生(単独授業)】

英語ノート2 Lesson5 「Turn right. 道案内をしよう」

国立教育政策研究所 教育課程調査官 直 山 木 綿 子



授業の最初に子どもたちの名前を呼び、名札を手渡す活動をとおして、子ども一人ひとりの様子を的確に把握され、それ以後の授業展開に生かされていました。

建物等の英語での表現の仕方や発音の仕方及び英語に慣れ親しむゲームの進め方は、実際の授業にすぐに役立つものであり、大変参考になりました。

【研究発表】

阿知須小学校の研究発表



阿知須小学校では、昨年度、文部科学省の指定「外国語活動における教材の効果的な活用及び評価の在り方等に関する実践研究事業」を受けられ、事業は1年間で終了したものの、今年度も継続して取組を進められています。その研究成果を兼坂教諭が発表されました。研究の背景、児童の変容、研究の実際、評価の在り方等について述べられましたが、全校体制で無理なく取り組んでこられた様子は、大変参考になるものでした。

【フォーラム】

「外国語活動における教材の効果的な活用及び評価の在り方～コミュニケーション能力の素地を育成するためには～」

パネリスト：鳴門教育大学大学院学校教育研究科 准教授

パネリスト：山口大学教育学部附属山口中学校 教諭

コーディネーター：山口県教育庁義務教育課 指導主事

かね	しげ	のぼる
兼	重	昇
さ	と	り
佐	藤	綾
つる	なが	さち
鶴	永	幸彦

兼重准教授からは、指導資料を参考にしっかり教材研究をすること、情報教育機器や人材を積極的に活用すること、学校や子どもたちの実態に合わせて、教材の配列や授業進め方を変えること、迷ったら教育委員会へ相談すること、やり過ぎないことなど、ユーモアを交えて話していただきました。佐藤教諭からは、中学校の先生という立場で、中学校では小学校で漠然と聞いたり話したりしてきたことを意識化すること、英語で表現する場面を工夫し気持ちを込めて活動すること、新たな発見、認識を揺さぶる授業を仕組む重要性などについて熱く語っていただきました。

【講演】

「小学校外国語活動の課題と展望」

国立教育政策研究所 教育課程調査官 なお やま ゆう こ
直 山 木綿子



フォーラムを受けて、外国語活動の導入に向けて、小中連携が重要であること、特に中学校の先生方が外国語活動を理解することからお話が始まりました。また、阿知須小にたくさんお花が生けてある環境づくりときめ細かな生徒指導の大切さにも話が及びました。その他には、外国語活動の授業だけ特別大きな声で、常に笑顔でいる必要はないこと、外国語活動における担任の役割とクラスルーム・イングリッシュの使用度合い、言葉で表現することが苦手な子どもたちに、外国語(英語)という負荷をかけることで、日本語の能力も伸ばすことにつながるなどについて、平易な言葉でわかりやすく丁寧にお話しいただきました。

ステージから降りられ、参加者に直接マイクを向け質問されるなど、95分間熱心に話していただき、外国語活動の全面実施に向けた取組意欲が喚起されました。